

えながら、今まで育ててきたつもりでいましたが、今、振り返ってみますと、ほとんど親の都合で何もかも決めてきたように思い反省させられることばかりです。貴重なお話しをありがとうございます。



港第二育成園支部

杉山 里美

十一月八日に大阪YMCA 会館ホールで行われた、第九回大阪市知的障害者育成会大会に参加しました。

開会の式典の後、全日本手をつなぐ育成会理事長の副島宏克氏からの中央情勢報告が

ありました。最近の動向として、障害者自立支援法の国会審議、障害者虐待防止法の審議中止、就労による障害基礎年金の減額・停止の問題などについて、資料を示しながら、詳しく説明されました。

障害者を守るための法律が成立しなかったのは、本当に残念です。また、就労によって年金を減額・停止された事例は、身近な問題として受け止めました。何故このようなことになってしまったのか、また、どのようにすれば良かったのか、大変興味深い内容でした。

その後、障害者自立支援法の見直しの現状や障害者福祉のチェックポイント、民主党の障がい者の総合福祉施策の改革推進の方向性についても説明されました。

民主党政権に変わったことで、今後の福祉はどうなっていくのか、不安ですが、笹野井理事長が挨拶の中で述べら

れたように、私たちの願いをしっかりと受け止めていただけるよう、期待するしかないと思いました。

午前の部が終了し、昼食後は、白ゆりコーラスの方々の美しい歌声を聞かせていただき、続いてピアノ演奏、独唱も楽しませていただきました。次に登場された東育成園のチアリーダーチームの演技に会場が盛り上がりました。素晴らしい笑顔一杯の熱演に拍手が送られました。

午後の部では、明星大学教授で全日本手をつなぐ育成会理事の、吉川かおり氏による「家族支援プロジェクト」の講演が行われました。ダウン症のお兄様とのエピソードや体験された様々な具体例を織り交ぜながらのお話しに引き込まれました。

「障害」に振り回されることなく、家族がバランス良くあるためには、どうすればいいのか、深く考えさせられま

した。チェックシートを使つての作業では、本人の意志を尊重していたつもりが、結局は親の思い通りにさせていたことに気付き、愕然としました。

子どもの年齢を出生から数年ごとに区切り、並べて親の年齢を書き込んでいく作業で、子どもの年齢が四十五歳になった時の自分の歳を見て、現実を思い知らされました。頭では理解していても、まだまだ先の事だと思っていた親離れ・子離れが、決して遠い未来ではない、と改めて気付かされました。

大会終了後、様々な思いと充実した一日を過ごせた満足感と共に、帰路につきました。

全日本育成会から

新政権に交代し、障害者自立支援法の廃止が発表されました。今後の障害者施策に期待する一方、直面する諸問題

への対応や将来像など不安も拭いきれません。そこで、その不安を払拭するために、全日本育成会では長妻厚生労働大臣あてに要望書を提出しました。

その内容は次のとおりです。
一、当面の諸課題について
①現場に混乱や停滞を招くことのないような施策を講じてください。(現在、障害者自立支援法の下でサービスを受けている利用者があり、また、新体系サービスへ移行している事業所もあります。これらの現状を踏まえ、現場に混乱や停滞のないように。)
②次のとおり現行法を改正してください。

- ・現在の負担軽減措置を恒久化し応能負担を原則とする。
- ・グループホーム・ケアホームの家賃等について、負担を軽減する助成制度の創設。
- ・放課後等デイサービス事業の制度化。
- ・市町村での相談支援センタ